徳永　伸行 議員

問 堀割の途中に休憩所、休憩用のベンチ、手洗いなど設置できないか

答 モデル地区を設定し、将来像を描いていく

問 堀割に休憩用のベンチ、手洗いなど設置は？

町長

堀と田んぼは、本町のシンボルで、一千年の歴史を持つ文化的価値を持つ資産である。現代にふさわしい価値として高めていくために、磨きをかけていくことが、町づくりの重要な柱の一つである。

第3次大木町総合計画において、「堀と農地、堀と生活を見直し、公園のように整備し、水と緑の美しい景観を誇れるまちづくりを構想する」ことが基本構想に位置づけられているほか、その後の総合計画においても、堀や農地を公園的に整備し、ネットワーク化していく構想が盛り込まれている。これらを進めていく第一歩として、まずは多くの町民の皆さんが、堀や田んぼが本町の宝であるということの共通理解が不可欠であり、さるこいフェスタなどの町歩きイベントや滞在型の農業農村体験事業などを実施している。これらの取組を実施していく上で、休憩用のベンチやトイレなどは、全町的に整備を検討していくことも必要と考えている。

整備に係る費用とあわせて維持管理の負担が発生するので、意欲がある地区などをモデル地区として設定し、地域住民の皆さんとその地区の将来像をしっかりと描き、計画を創っていくような取り組みが必要ではないかと考えている。

問 堀の泥土の処理は？

企画課長

低平地である本町は、堀に泥土が溜ることは宿命であり、この地で住み続けていくには、泥土の浚渫は、絶やすことができない大切な行為である。

堀の泥土の浚渫は、物質循環を促すとともに、水の浄化の観点からも大変優れた行為である。堀の泥土は腐植が豊富で肥持ちがよく、田んぼの客土としては大変良質と言われ、活用することで循環利用を図ることができる。堀の底をさらえ、天日にさらすことで、微生物などの生態系の更新を促し、堀の浄化能力を高める。石丸山公園で、ごみ揚げを再現するイベントが開催されたが、泥土は、堀に隣接した田んぼに還元することが、最も合理的かつ効率的な処理方法である。

しかし、実施していくには、①泥土に混入している空き缶や瓶、プラスチック類などの異物を除去すること。②重金属などの有害物質が泥土に基準以上含まれていないこと。③泥土を還元する田んぼを確保すること。④泥土浚渫など一連の作業ができるスペースがあることなどの課題があげられる。

平成28年度においては、実験的あるいは試験的に泥土浚渫に取組んでいく予定だが、ある程度の期間や試行錯誤は覚悟しなければならない。

取組みが一定のコストで行える技術や仕組みが確立できれば、町民の皆さんとの協働を前提にしながら、しっかりとした対応ができるのではないかと考えている。

幹線水路に設置されたベンチ・トイレ（例）

泥土でうまった水路